

第8節 避難措置および避難所の運営

8.1 避難勧告・指示の状況

平成19年(2007年)新潟県中越沖地震における避難勧告・指示は、新潟県内の2市1町に発令された。このうち柏崎市の状況は、以下のとおりとなっている。

なお、この他に新潟県長岡市で2世帯7名(17日18:00発令23日16:00解除)、新潟県出雲崎町で633世帯1,582(16日10:21発令16日11:37解除)に対して避難勧告が発令された。

表8.1.1 柏崎市における避難勧告・指示の状況

平成19年8月1日18:00現在

No.	避難勧告 発令日時	避難指示 発令日時	地区名	避難勧告		避難指示	
				世帯数	人数	世帯数	人数
1	H19年7月16日 14:10		米山町地内の一部	20	60		
2		H19年7月16日 18:30	青海川地内の一部			8	38
3		H19年7月17日 13:15	西山町別山地内の一部			1	2
4		H19年7月17日 20:30	西山町中央台地内の一部			10	23
5		H19年7月18日 16:30	西本町二丁目地内の一部			42	107
6	H19年7月19日 22:40		西山町五日市地内の一部	4	18		
7	H19年7月20日 19:30		番神二丁目地内の一部			1	2
		H19年7月21日 13:00					
8	H19年7月21日 13:30		山本地内の一部	34	81		
9	H19年7月22日 10:30		西山町五日市地内の一部	1	6		
10	H19年7月22日 18:30		青海川地内の一部	2	6		
11	H19年7月24日 15:00		中浜二丁目地内の一部	3	9		
12	H19年7月25日 15:00		長崎地内の一部	1	4		
13	H19年7月25日 15:00		番神二丁目地内の一部	14	34		
14	H19年7月25日 15:00		東の輪町地内の一部	8	28		
15	H19年7月27日 15:00		上輪地内の一部	2	2		
16	H19年8月1日 18:00		笠島地内の一部	1	1		
	計11箇所	計5箇所		90	249	62	172
	勧告・指示の合計 16箇所		勧告・指示の合計 152世帯		421人		

(出典) 柏崎市提供資料

8. 2 避難所の設置状況

(1) 一般避難所

地震発生当日の7月16日には、柏崎市、刈羽村など9市町村126箇所で開設され、合計で11,228名の避難者が発生した。中でも、柏崎市が最も多く、76箇所の避難所に9,859名が避難した。避難者数は、翌17日に12,724名で最大となった。

避難者は、地震発生後3日目から徐々に減少していき、平成19年8月31日に全ての避難所は閉鎖された。

(2) 福祉避難所

福祉避難所が本格的に設置されたのは、新潟県中越沖地震が初めて^(注)である。

新潟県中越沖地震発生後の翌日17日に刈羽村デイサービスセンター「きらら」に福祉避難所を設置したのを皮切りに、最大9箇所で設置された。新潟県中越沖地震の際には、災害救助法に基づくものと位置づけられ、極めて早い時期に、組織的に設置されたのが特徴である。これらの福祉避難所は、(社)新潟県老人福祉施設協議会、新潟県介護老人保健施設協会、特別養護老人ホーム、介護保険事業者、新潟県看護協会等の協力を得て運営され、のべ1,233人の介護専門職の協力を得た。

開設された9箇所の福祉避難所は下記のとおりであり、のべ46日間、2,335人が利用した。利用者のピークは7月25日の106人であった。

(注) 平成16年新潟県中越地震の際、小千谷市では発災の約1週間後に、市内のケアハウス(1箇所)に虚弱高齢者専用の福祉避難所が設置されたが、災害救助法に基づく正式なものではなかった。

名称	7月							8月			
	17	18	19	20	21	29	31	5	17	20	31
刈羽村「きらら」	○						→○				
刈羽村老人福祉C		○								→○	
柏崎小学校			○								→○
特養「いこいの里」			○				→○				
長浜DS「ふれあい」				○			→○				
元気館障害者DS				○				→○			
柏崎高校セミナーハウス					○						→○
特養「くじらなみ」						○			→○		
新潟県ふれあいプラザ					○						→○

○：開設日、新潟県ふれあいプラザは身体障害者施設・人工透析患者用の福祉避難所

図 8. 2. 1 新潟県中越沖地震で設置した福祉避難所の状況

(出典) 新潟県福祉保健部『新潟県中越沖地震における福祉保健部の対応状況』平成20年1月(一部加工)

(出典) 新潟県：発表資料、新潟県福祉保健部『新潟県中越沖地震における福祉保健部の対応状況』平成20年1月、日本赤十字社, 2008, 『平成19(2007)年新潟県中越沖地震における災害救助にかかる活動記録』

8. 3 避難所の環境整備

(1) 感染予防対策

避難所における感染症の発生予防とまん延防止の徹底を図るため、注意喚起を実施した。実施期間は、平成19年7月17日～8月31日で、手洗い・うがいの励行、たべもの等に対する注意喚起のチラシ(22,000部)及び大型ポスター(A1版600部)の作成・配布を実施した。また、同内容を県のホームページにも掲載した。

結果、避難所等での感染症の集団発生は報告されなかった。

(2) 環境衛生対策(ハエ・蚊対策)

地震発生が7月16日で、避難生活が夏季期間に及んだため、避難所での発生が危惧された衛生害虫(ハエ・蚊)対策を実施した。内容としては、避難所に電池式蚊取り器、ハエとりリボン、ゴキブリトラップ、ねずみトラップを配付した。また、100人以上の避難所を中心に避難所周辺の水たまり、廃棄物集積場及び簡易トイレの状況調査と応急対応を実施した。

この結果、避難所入居者からの苦情はなかった。

(3) 環境衛生対策(空気環境測定)

夏場の高温期における避難所の環境を評価するため、空気環境の測定を日中の午前と午後の2回、以下の場所において測定を行った。

- ・一般避難施設3箇所(体育館に仮設エアコン設置2箇所、通常のエアコン設置1箇所)
- ・福祉避難施設2箇所(通常のエアコン設置2箇所)

結果、梅雨明けの7月に行った2回の調査は問題なかったが、8月夏日で屋外気温が31℃の時、通常のエアコンが設置されている避難所では気温27℃、不快指数74.9と快適な環境に保たれていたが、仮設エアコン(米軍支給ウインドクーラー)設置避難所ではエアコンの能力が不足(体育館にウインドクーラー4台のみ)のため、室内中央部の温度は31℃、不快指数80.8と不快な環境となっていた。

(4) 食品衛生対策

ライフラインが被害を受け、衛生確保が難しい中で、夏の高温期を迎え、食中毒などの食品による事故が発生する恐れがあるため、食品衛生監視員による現地指導、チラシ配布や「ホームページによる啓発などにより、食品による危害発生を予防するために実施した。

食品衛生監視員の活動としては、のべ218に及ぶ、避難所、炊出し施設(ほとんどが避難所と併設)での現地指導と、のべ853施設(大きな被害を受けた施設は60施設)の被災食品事業所での現地指導であった。この活動に際し、柏崎地域振興局健康福祉部(柏崎保健所)から7月17日～25日の間、県内11の地域振興局からのべ52人が派遣された。

結果、速やかな対応が実施でき、被災地での食中毒の発生はほとんど防止できた。また、食品の腐敗・変敗などの苦情もなかった。

(5) その他

その他にも、エコノミークラス症候群対策、口腔ケア、歯科保健対策等、様々な避難所の環境整備対策が実施され、効果的な成果に繋げることができた。

8. 4 エコノミークラス症候群予防

平成19年7月16日に発生した新潟県中越沖地震により、被災地では多数の住民が避難所等での生活を余儀なくされた。

平成16年の新潟県中越地震時には、エコノミークラス症候群との関連が疑われる死亡例が報告されたことなどから、被災地の住民への注意喚起を図るため、7月17日にリーフレット700部を県警本部を通じて避難所へ配布した。さらに17日から18日にかけて、避難所や、その周辺に駐車している避難住民に対し、リーフレット2万枚を配布し、19日にはポスター600部を避難所に配布した。

また、7月18日から24日にかけて、民間合同医療チームが避難所を巡回しながら予防検診を実施し、延べ29避難所で437名を検査した。その結果、エコー検査による陽性者(血栓のあった者)31名が確認された。一方、県では、避難所で生活している住民のほか、車中泊経験者やエコノミークラス症候群に不安のある住民を対象とした検診を実施するため、広く地域住民に対して検診実施の周知を図った。7月28日、29日に新潟県医師会及び柏崎市刈羽郡医師会と共同で避難所を会場とした検診を実施し、延べ12会場で545名を検査した。その結果、エコー検査による陽性者(血栓のあった者)18名(要受診者10名、要経過観察者等8名)が確認された。受診者545名中、血液検査を受けた235名へは結果を通知し、併せて、要受診者14名(陽性10名、陽性以外4名)に対して医療機関への受診を勧奨した。

中越地震では、余震が続くなどの理由から、長期間にわたって車中泊をする人が多く存在したのに対し、中越沖地震の場合は、車中泊をする人が少ないこともあり、エコノミークラス症候群との関連が疑われる死亡例の報告はされていない。

表 8.4.1 エコノミークラス症候群予防検診実施状況

実施区分	実施日	会場数	受診者数	陽性(血栓あり)
民間合同医療チーム	7月18日	4会場	33人	6人
	7月20日	5 "	70 "	3 "
	7月21日	11 "	182 "	7 "
	7月22日	7 "	114 "	10 "
	7月23日	1 "	19 "	2 "
	7月24日	1 "	19 "	3 "
	小計	29会場	437人	31人
県・医師会	7月28日	7会場	227人	8人
	7月29日	5 "	318 "	10 "
	小計	12会場	545人	18人
合計		41会場	982人	49人